

2021年 8月 子育てワンポイント

テーマ

「早く！早く！」ばかり言っていないですか？

子どもに、つい言ってしまうがちな「早くしなさい！」という言葉。言いたくないのに怒ってしまい、後悔する方も多いのではないのでしょうか。今回はその言葉が与える弊害や、対処法などをお伝えします。

「早く」「急いで」の口癖が子どもに与える4つの弊害

1. 自分で考えないようになる
2. うっかりミスや事故が増える
3. 物事への取り組みが雑になる
4. 相手（友達）を待つことができなくなる



急がされている言葉により、子どもは常に「今、ここで」発生している問題の解決に落ち着いて取り組めず、実際に何をどう早くすれば良いのか、あまり理解されない状態が続きます。しかし、実生活で子どもの行動が遅いと、保育園や小学校に遅刻するなどの支障もでてきます。その為、親としては言わずにはいられないこともあるでしょう。では、どのように伝えたらよいのでしょうか…？

《ステップ1》早くしなければいけない理由を一緒に言う

例：「早くご飯を食べないと学校に遅れるよ」

*急ぐ理由を伝えると、行動を早くしようとする気持ちの原動力になるでしょう。

《ステップ2》行動を1つに絞り、具体的な行動を促す

例：「着替えたら、朝ご飯を食べよう」

*行動を1つずつ促すと、子どもは分かりやすくなります。

《ステップ3》具体的な時間を伝える

例：「7時40分に家を出るから、7時30分までに食べ終わろうね」

*時間を伝えることで、後に自分で計画を立てて動く練習になります。



この他にもいろいろな伝え方がありますが、まずは子どものペースを見守り、その後の言い方を少し工夫する伝え方をし、子ども自らの意志で行動を早くできるようにしてあげましょう。

